

韓国研修レポート

21A007 安藤 鞠里

私達は、2023年8月7日(月)から8月10日(木)まで、韓国研修に行ってきた。

11時過ぎに仁川空港に着き、バスで宿泊するホテルスカイパーク明洞に向かった。その後は明洞周辺で観光を楽しみ、研修のメンバーとチーズタッカルビを食べ早速韓国を満喫することができた。

2日目は、最初に漢陽大学校大学病院に行った。漢陽大学校大学病院は1972年に開院し、理念は「愛の実践」である。1985年に心臓センターがオープンし、1992年には三次医療機関として指定され、2003年に国際病院となった。他にもロボット治療センター、リウマチ関節炎センター、重症筋無力症センター、脳の神経治療センター、救命センターなどがオープンし、先進医療技術者を世界のために利用できるような病院である。

1日に2500人の外来患者が訪れ、入院患者は600名程度、病床は861床である。総職員数は2024名で、そのうち薬剤師は29名いる。薬剤師は平日は8:30~17:30まで勤務し、29名とは別に夜勤のみの薬剤師が6名おり、毎日2人ずつ勤務している。病棟に薬剤師は在中しておらず、入院患者30人に薬剤師1人、外来の処方箋70枚で1人薬剤師が必要だそうだが、薬剤師29名とはいうのは病床の数や外来の患者の数と比較してもとても少ないと感じた。薬剤師の仕事内容は日本の薬剤師とほとんど変わらないが、日本と違うと感じたのは障害1級、2級のなどの例外の患者以外は外来の調剤薬局で薬をもらうということだ。外来患者に1日1500

枚の処方箋を発行するのに対し、院内で調剤する処方箋は200枚程度である。説明を聞いた後、調剤室などを見て回った。日本の病院の調剤室と比較すると少し小さいと感じた。麻薬は、シリアルコードを確認して管理しており、臨床試験で使う薬は温度1~30℃で保管され、停電時も温度が保たれるようになっていた。病院の中を見て回った後、病院に実習に来ている薬学部の学生の方に話を伺った。実習には基礎とアドバンストがあり、基礎では基本的なことのみでアドバンストでは監査などを薬剤師と一緒にいたり、簡単な調剤をしたりと深く勉強する。韓国には薬学部がある大学が37校あり、毎年約1800名が薬剤師になる。

漢陽大学校大学病院を見学した後、電車で漢方剤市場、漢方博物館に行った。漢方剤市場では大学の授業で習った漢方がたくさん売られていて、日本では見られない風景に驚いた。漢方博物館には授業で見たことがないたくさんの種類の漢方が展示されていたり、漢方剤に関するクイズができたりと漢方について様々なことが学ぶことができた。

その後、ソウル大学医学博物館に行った。ここでは、ソウル大学病院の歴史や医療の進歩について展示があった。昔の解剖学の展示もあり、たくさんの犠牲の上に現代の医療が成り立っていることを改めて実感した。

この日は、研修メンバーとかき氷や明洞餃子、ラーメンを食べ、ソウルタワーに行ったりと思い出も作ることができた。



漢方博物館 館内の展示



漢陽大学校 連携薬局の外観

3 日目は最初に、GC Biopharm 研究所へ行った。1967年に創業し、1971年に血液関係の生産を開始、1999年に施設が建てられ最近リニューアルされたため、とても近未来的で綺麗だった。韓国で2番目に大きい製薬会社である。ワクチンや血液製剤、希少疾患の薬の販売や、Plant Business という工場を建てる仕事をしている。血液製剤ではアジアで一番大きい工場がある。ワクチンのうち 5000 万 dose がインフルエンザ、5 万 dose が水疱瘡で他にジフテリアや日本脳炎など、18 種類のワクチンの製造をしており、そのうち 6 種類は WHO からの認証を貰っている。伺った研究所では、250 名の方が働いている。研究所の一階ではバイオ研究をしており、動物の細胞からタンパク質を作る研究などを行っている。温度に敏感であるため、パソコンで温度を管理したり、pH や酸素濃度などを管理したりと、研究の自動化が進んでいた。その後、漢陽大学校連携薬局に行った。伺った薬局では 1 日処方箋が 400 枚ほど扱っている。日本の薬局と比べて違うと感じた所は 3 つある。1 つ目は、1 回の処方箋で 6~8 ヶ月分の薬を渡す点、2 つ目は調剤薬局にはチェーン店がない点、3 つ目は OTC 医薬品の種類がとても少ない事である。どれも日本で暮らしていると考えられないことで驚いた。服薬指導は、1.アイスブレイク(打ち解ける)2.事実確認 3.デリバリングインフォメーション 4.コンフォーム確認 5.挨拶 の 5 段階で

行う。1 のアイスブレイクをすることで、説明を聞いてもらいやすくなったりトラブルの時も上手く解決できるため一番大事であると教わった。最後に、漢陽大学校薬学大学に行き、英語でお互いの大学での生活やカリキュラム、研修についてのスピーチを聞いた。そしてサムギョプサルを食べながら漢陽大学校薬学大学の 6 年生の学生達と交流を行った。言葉の壁があったものの、簡単な英語を使ったり、翻訳アプリを使ったりして学校生活についてや、韓国についてなど様々なことを教えて頂き、楽しい時間を過ごす事ができた。4 日目には台風が直撃するという予報があり帰れるか心配だったが、飛行機は遅れることなく出発することができ、無事日本に帰国することができた。この 4 日間を通して、韓国研修に参加しなかったら絶対に行くことのなかった場所に行くことができ、実際には見学してお話を聞くことでたくさんを知り、学ぶことができた。研修に参加するまで日本での常識が世界でも同じであると考えていたが、違う部分もいくつかあり、他の国はどうなのかととても興味が湧いた。もしまたこのような海外研修の機会があれば是非参加したいと思う。